

説教題：「**主の晩餐を体験する**」

聖書箇所：ルカによる福音書22章7 - 23節 (153頁)

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 40 交読詩編：詩編107編1 - 9節 (119頁)

讚美歌：83/298 (ああ主は誰がため) / 300 (十字架のもとに) / 81 (主の食卓を囲み) / 27

「今週の聖句」 〔時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。〕

(ルカ伝22：14)

「牧師室の窓」 「小学の入学式に手を引かれ懐かしの日々セピアの輝き」

「新入の社員研修宿泊の日々を重ねつ夜食で息継ぐ」

(1)皆様おはようございます。3月の後半から気温が上下する日々が続きました。如何でしたでしょうか。先週から4月になり新年度を迎えました。明日の4月7日月曜日は、多くの学校で入学式があると思います。小学校の入学式には保護者も付き添ってこられることでしょう。皆様が小学1年生の入学式は如何でしたでしょうか。私の思い出はセピア色の写真のようになっていますが、毎日、父母の写真に向かって感謝しています。先日のニュース報道では新入社員のことが報じられていました。私の時は4月1日が日曜日でしたので4月2日から始まりました。入社式の後にバスに載せられて、合宿研修があり、毎日、グループ討議を行ないました。答えのない問題を討議して行くのです。学生時代には、答案用紙に答えを導きだしたり、自分の考えを書いて、点数を付けてもらうのが一般的です。併し、社会人となり、働いて収入を得ると言うことは、答えのない問題にチャレンジすることに他なりません。知恵を絞り、心を尽くして考えなさい、と教えられた苦闘の研修合宿を終えて、社会人としての第一歩を始めました。人生の節目節目で今までとは異なる環境に身を置くことは不安が伴うものです。一方で、従来と同じ環境にあって、今までとは異なる自分を目指すことも不安が生じてきます。今日の聖書箇所の御言葉は私たちに勇気を与えてくれる箇所であると思います。

(2)本日の聖書箇所は「主の晩餐」がどの様に準備されたのか、「主の晩餐」はどの様な状況であったのかが記されています。その前に、今日の聖書箇所がどの様な状況であるのかを確認しておきましょう。ルカ伝22章の1節には「(22:1)さて、過越祭(すぎこしさい)と言われている除酵祭(じょこうさい)が近づいていた。」と書かれています。過越祭・除酵祭とは何であるのかについては旧約聖書の出エジプト記12章(111^レ-ジ)に書かれています。…イスラエルの民が古代エジプト王国で重労働に酷使され奴隷状態にありました。指導者であるモーセはエジプト国王ファラオと交渉し、イスラエルの民がエジプトから出て行く・脱出することを望みますが、ファラオは認めません。最後の手段として、エジプト国内で生まれた子が、長男または長女の様に、出産で初めての子は、人間であっても動物であっても、死ぬことが宣言されました。その死を避けることができる唯一の方法は、子羊の血を家の入口の2本の柱に縦に塗り、加えて、鴨居(かもい)に横に塗ることでした。その様にしてある家を神は「通り過ぎて行き」、禍(わざわい)は起きなかったのです。家の中では人々が焼いた羊の肉を食べ、酵母を入れないパンと苦みのある野菜を食べなければなりません。パンに酵母菌を入れないのは急いで作らなければならなかったからです。そのことを記念して過越祭があり、過越祭に続く7日間が除酵祭と定められました。実施される時期は太陽暦の3月末から4月初め頃でした。

(3)7節8節を見てみましょう。〔(ルカ伝22:7)過越の小羊を屠るべき除酵祭の日が来た。(22:8)イエスはペトロとヨハネとをいに出そうとして、「行って過越の食事ができるように準備しなさい」と言われた。〕イエス様はペトロとヨハネに過越しの食事ができる場所と食事の準備をすることを命じられましたが、二人の弟子はどこにそのような場所があるのかと戸惑いました。イ

イエスは、エルサレムの町に行けば「水がめを運んでいる男に会う」ので、その人について行きなさいと言われました。当時の社会習慣として、男性はぶどう酒が入っている革袋を運び、水がめを運ぶのは女性とされていたようです。ですから、「水がめを運んでいる男に会う」ことは容易(たやす)いことでした。その男性にイエス様から言付かった用件を言いました。11節〔(22:11)…先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をする部屋はどこか」とあなたに言っています。〕イエス様は、今日が弟子たちと最後の晩餐を過ごす日であると思いき食事の場所を定められたのです。弟子たちには奇妙な出来事でしたが、後からこのことを思い出してみれば、成程、そうだったかと理解したのでしょう。

弟子たちはイエス様の言われた通りの「席の整った二階の広間」を案内されましたので、「過越の食事を準備し」ました。

(4) 愈々(いよいよ)最後の晩餐の場面が始まります。14節〔(22:14)時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。〕この14節には「弟子たち」とは呼ばずに「使徒たち」と書かれています。「使徒」とはギリシア語で、「派遣された者、使者」という意味です。神からの聖霊降臨によって、派遣された者であるとされた使徒たちが、初代教会を築いていきます。19節そして23節にも「使徒たち」と書かれています。と言うことは、この最後の晩餐の内容が、イエス様が無くなられた後に形成された初代教会の中で、聖餐が行なわれる時に、繰り返し、繰り返し、読み聞かされて共有されていたものと推測されます。この14節の「時刻になったので」と言う言葉は、初代教会での聖餐式がこれからまさに始まろうとする緊張感と期待感と喜びの気持ちが込められています。現代に生きる私たちもその場面へと誘(いざな)われます。15節に書かれている「苦しみを受ける前に」とは、イエス様が十字架で処刑されることを示しています。

この15節には一人の人間としてのイエス様の心の苦しさが、弟子たちとの今生(こんじょう)の別れとなる辛さ・悲しさが記されています。…16節には、イエス様の決意が述べられています。この16節は口語訳聖書や聖書協会共同訳の方が分かり易いです。口語訳聖書では「(22:16)あなたがたに言うが、神の国で過越が成就する時までは、わたしは二度と、この過越の食事をすることはない。」、聖書協会共同訳では「(22:16)言うが、神の国で過越が成し遂げられるまでは、私はもはや二度と過越の食事をすることはない。」

(5) この過越しの食事は初代キリスト教会では「聖餐・聖餐式」となりました。「聖餐」とは、洗礼を受けてクリスチャンとなった者が、主の苦しみを思いつつ、この地上に在りながらも「神の国」を体験することに他なりません。それは即ち、言葉を変えて言えば、この地上に在りながらも「神の国」を体験する喜びに他なりません。洗礼を受けた喜びと主の弟子となった決意とを確認することが「聖餐」であります。「聖餐」は「聖餐式」に集う方々と共にいただきますので、集団的行動の様に思われがちですが、そうではありません。その人と主なる神との一対一での個別面談であります。皆さん、実に不思議とは思いませんか。単なるパンのかけらとぶどう酒・ぶどうジュースとによって、その人と主なる神との一対一での個別面談の場が設営されるのです。豪華な建物の中ではありません。教会と言う場所においてであり、或いは、病床に出張しての聖餐です。

30年前の1月17日に阪神淡路大震災があり、多くの建物が崩れて壊れました。神戸の中心地には幾つもの教会があり、ある教会では大きめのテントを組み立てて礼拝が行なわれていました。そこで行なわれた聖餐式のパンとぶどう酒・ぶどうジュースに教会員は励まされたことと思います。瓦礫(がれき)の中に組み立てられたテントを見た時に私は感動しました。礼拝は建物の良し悪しではありません。聖餐は神との直接対話であることを強く思いました。その時の感動を思い起こして詠みました短歌が先月発売の月刊誌「信徒の友」4月号文芸欄に入選しました。選者からの

書評・コメントを頂く特選に入選しました。30年前の大地震で私の友人のご家族が命を失いました。地震の恐ろしさを目の当たりにして、礼拝に集うことができることに感謝しています。

私は若い時に羽田空港で勤務をしたことがあります。羽田空港が日本での唯一の国際空港であり、著名な方々が出発の見送りをしていました。私たち職員の勤務形態は日勤と夜勤とのシフト勤務で、日曜日が勤務日にもなりました。と言うことは、日曜日の礼拝に出席できないことがあり、聖餐式に参加できないことがしばしばありました。十数年経過して、大阪の教会に所属していた時に壮年会で神戸の幾つかの教会を訪問することを企画し実行しました。ある教会の牧師に私は日曜日に働いて礼拝に出席できない人たちにどの様になさっておられますかとお聞きしました。40年近く年月が経過しましたが、今でもその牧師の言葉を私は忘れることができません。その

牧師に深く感謝しています。信仰の交わりは私たちに感動と生きる喜びを与えてくれると思っています。

(6) イエス様と弟子たちの過越しの食事が進む中で、19節では〔(22:19)…イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」〕そして、20節では、〔(22:20)…杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。」〕とされました。

ここに書かれている「新しい契約」の「契約」とはギリシア語では遺言・神から与えられた契約と言う意味で、英語では聖なる約束と言う意味でコヴェナント(covenant)という言葉が使われています。金融経済の法律用語には、コヴェナント条文という契約文言があり、この条文に違反すると約束違反となり、厳しい制裁を受けることとなります。現代社会の経済の最先端で使われているのが、聖書に書かれているこの「契約」という考えなのです。約束をしっかりと守ることが重要です。

きょうは聖書箇所である「過越しの食事」の記事を読みまして、「主の晩餐」と「私たちの聖餐」について考える機会を与えられました。本日これから「聖餐式」を行ないます。19節20節に書かれている「わたしの記念として」「わたしの…新しい契約」を心新たに体験してみましょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、受難節・レントの期間を過ごしています。キリストが歩まれた道に思いを馳せて、神の恵みに感謝して日々を過ごしたいと願っています。私たちの信仰を導いて下さいますようにお願いします。3月28日にミャンマー・タイで大規模な地震が起こり多くの人々の命が失われ、多数の負傷者が出ています。慰めがありますように、救助がなされますように。食べ物が行き渡りますように、病気の心配がありませんようにお守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン